

clmgr コマンド

PowerHA[®] SystemMirror[®] の **clmgr** コマンドの最も一般的な構文および例を素早く見つけるには、以下の情報を使用します。

clmgr コマンドについて詳しくは、『clmgr コマンド』トピックにあるマニュアル・ページ資料を参照してください。

基本的な使用法

コマンドの使用法	コマンド構文
基本コマンド形式	<code>clmgr <ACTION> <CLASS> [<OBJECT>] [COMMAND-SPECIFIC INPUTS]</code>
データ検索コマンドからのフレキシブルな出力	<ATTR>=<VALUE> ペアの表示 (デフォルト) <pre>clmgr query <CLASS> <OBJECT></pre> コロン区切り出力の表示 <pre>clmgr -c query <CLASS> <OBJECT></pre> カスタム区切り出力の表示 <pre>clmgr -d<C> query <CLASS> <OBJECT></pre> quasi-XML 形式の表示 <pre>clmgr -x query <CLASS> <OBJECT></pre>
意図認識: エイリアス	clmgr add cluster <i>add</i> アクションにはエイリアス <i>create</i>、<i>make</i>、および <i>mk</i> があります。 clmgr query node <i>query</i> アクションにはエイリアス <i>show</i>、<i>list</i>、<i>ls</i>、および <i>get</i> があります。 注: 使用可能なエイリアスは、<code>clmgr <ACTION> <CLASS> -h</code> コマンドを実行することによって表示できます。
意図認識: 大/小文字の区別	大/小文字の区別は、すべてのアクション、クラス、および入力ラベルについては無視されます。例えば、次のコマンド構文が有効です。 <pre>clmgr query cluster == clmgr QueRY cLUsteR clmgr MoVe RESource_GroUp <RG> nODE=<NODE></pre> 注: 大/小文字の区別は、PowerHA SystemMirror 製品内で使用されるラベルには適用されません。例えば、<i>MyNode</i> というラベルのノードを作成できます。
意図認識: 省略形	構文を入力する際には、明確にするために十分な文字数だけを入力できます。次の例は、最初に正確な構文を、次に省略された構文を示しています。コマンドの結果はどちらも同じです。 <pre>clmgr query cluster == clmgr q cl</pre> <code>clmgr add tape SHARED_TAPE_RESOURCE=/dev/rmt0 == clmgr add tape SH=/dev/rmt0</code> 注: 省略形は、コマンド行から入力する際の使いやすさを目的とするものです。スクリプトでは省略形を使用しないでください。省略形はいつか変更される可能性があります。文書化されない場合があります。
ログ・ファイル	<code>/var/hacmp/log/clutils.log</code>

基本トポロジーの定義

コマンドの使用方法	コマンド構文
サイトなしでクラスターを定義	<pre>clmgr add cluster nodes=<NODE1>,<NODE2> clmgr add repository <DISK_IDENTIFIER></pre>
拡張クラスターの定義 注: サイトが定義されますが、リポジトリ・ディスクはすべてのサイトで共有されるため、拡張クラスターに必要なリポジトリ・ディスクは 1 つだけです。	<pre>clmgr add cluster type=stretched nodes=<NODE1>,<NODE2>,<NODE3>,<NODE4> clmgr add site <SITENAME> nodes=<NODE1>,<NODE2> clmgr add site <SITENAME> nodes=<NODE3>,<NODE4> clmgr add repository <DISK_IDENTIFIER></pre>
リンク・クラスターの定義 注: サイトが定義され、各サイトには専用のリポジトリ・ディスクがあります。	<pre>clmgr add cluster type=linked nodes=<NODE1>,<NODE2>,<NODE3>,<NODE4> clmgr add site <SITE1> nodes=<NODE1>,<NODE2> clmgr add site <SITE2> nodes=<NODE3>,<NODE4> clmgr add repository <DISK_IDENTIFIER1> site=<SITE1> clmgr add repository <DISK_IDENTIFIER2> site=<SITE2></pre>
新たに定義するオブジェクトをすべての定義済みノード上に作成	<pre>clmgr sync cluster</pre> cluster のエイリアスは cl です。 注: 変更内容をクラスター内の他のノードに複製するには、構成変更後にクラスターの検査および同期化を行う必要があります。

リソース・グループの定義

コマンドの使用方法	コマンド構文
リソース・グループの定義	<pre>clmgr add resource_group <RG_NAME> nodes=<NODE1>,<NODE2> ¥ applications=<APP1>,<APP2> volume_group=<VG1>,<VG2> ¥ service_label=<SERVICE_IP_LABEL> ...</pre> resource_group のエイリアスは rg です。 注: リソース・グループは、1 つの単位として構成および管理するクラスター・リソースのセットです。
リソース・グループの変更	<pre>clmgr modify resource_group <RG_NAME> FILESYSTEM=<PATH> ¥ service_label=<SERVICE_IP_LABEL> ...</pre> resource_group のエイリアスは rg です。

アプリケーション・リソースの定義

コマンドの使用方法	コマンド構文
アプリケーション・コントローラーの定義 注: このコマンドを使用して、アプリケーションを自動的に開始および停止できます。	<pre>clmgr add application_controller STARTSCRIPT=<path_to_start_script> ¥ STOPSCRIPT=<path_to_stop_script></pre> application_controller のエイリアスは ac、app、および appctl です。 注: アプリケーションのスクリプトを指定する必要があります。スクリプトは、アプリケーションを実行する可能性のあるノードごとに必要です。

コマンドの使用法	コマンド構文
アプリケーション・モニターの定義 : プロセス・ベース	<pre>clmgr add application_monitor <MONITOR> TYPE=Process MODE=longrunning ¥ processes=<PROCESS_NAMES> OWNER=<USER_ID> ¥ applications=<APPLICATION_CONTROLLER></pre> application_monitor のエイリアスは am、mon、および appmon です。 ps -e コマンドを使用して、アプリケーションを使用するための正しいプロセス名を判別できます。 ps -ef コマンドは使用しないでください。例えば、 ps -e awk '{print \$4}' sort -u コマンドを使用できます。 注: このタイプのモニターは、1 つ以上のアプリケーション・プロセスの終了を検出します。
アプリケーション・モニターの定義 : カスタム	<pre>clmgr add application_monitor <MONITOR> TYPE=Custom MODE=longrunning ¥ monitormethod=<PATH_TO_SCRIPT> OWNER=<USER_ID> ¥ applications=<APPLICATION_CONTROLLER></pre> application_monitor のエイリアスは am、mon、および appmon です。 注: このタイプのモニターは、指定されたモニター・メソッド・ファイルを構成可能間隔で実行してモニター出口コードを検査することにより、アプリケーションの正常性を検査します。モニター・メソッド・ファイルは、アプリケーションを実行する可能性のあるノードごとに必要です。

LVM リソースの作成

コマンドの使用法	コマンド構文
ボリューム・グループの作成	<pre>clmgr add volume_group [<VG_NAME>] nodes=<NODE1>,[<NODE2>] ¥ disks=<DISK1>,<DISK2> type=scalable</pre> volume_group のエイリアスは vg です。
論理ボリュームの作成	<pre>clmgr add logical_volume [<LV_NAME>] volume_group=<VG1> ¥ logical_partitions=## type=jfs2 ...</pre> logical_volume のエイリアスは lv です。
ファイルシステムの作成: 論理ボリュームの作成	<pre>clmgr add file_system <FS_NAME> volume_group=<VG1> ¥ type=enhanced units=### size_per_unit=megabytes ...</pre> file_system のエイリアスは fs です。 注: このタイプのファイルシステムを作成するには、ファイルシステムのサイズを指定する必要があります。
ファイルシステムの作成: 論理ボリュームの使用	<pre>clmgr add file_system <FS_NAME> volume_group=<VG1> ¥ type=enhanced units=### size_per_unit=megabytes ...</pre> file_system のエイリアスは fs です。 注: このスタイルのファイルシステムを作成するには、特定の論理ボリュームのサイズを指定する必要があります。
ミラー・プールの作成: すべてのディスク	<pre>clmgr add mirror_pool <POOL_NAME> volume_group=<VG_NAME></pre> mirror_pool のエイリアスは mp および pool です。
ミラー・プールの作成: 指定したディスク	<pre>clmgr add mirror_pool <POOL_NAME> volume_group=<VG_NAME> ¥ physical_volumes=<DISK1>,<DISK2>,<DISK3></pre> mirror_pool のエイリアスは mp および pool です。

ボリューム・グループの管理

コマンドの使用法	コマンド構文
ボリューム・グループ: 物理ボリュームの追加	<pre>clmgr modify volume_group <VG_NAME> add=<DISK></pre> volume_group のエイリアスは vg です。
ボリューム・グループ: ミラー・プールの追加	<pre>clmgr modify volume_group <VG_NAME> add=<DISK> mirror_pool=<POOL_NAME></pre> volume_group のエイリアスは vg です。
ボリューム・グループ: 物理ボリュームの除去	<pre>clmgr modify volume_group <VG_NAME> remove=<DISK></pre> volume_group のエイリアスは vg です。

リソース・グループの管理

コマンドの使用法	コマンド構文
リソース・グループの移動: 新規ノード	<pre>clmgr move resource_group <RG_NAME> node=<NODE2></pre> resource_group のエイリアスは rg です。 注: リソース・グループによって管理されているリソースはすべて、現行ノードではオフラインに、指定した新規ノードではオンラインになります。
リソース・グループの移動: 新規サイト	<pre>clmgr move resource_group <RG_NAME> site=<SITE2></pre> resource_group のエイリアスは rg です。 注: リソース・グループによって管理されているリソースはすべて、現行ノードではオフラインに、指定した新規ノードではオンラインになります。
リソース・グループの開始	<pre>clmgr start resource_group <RG_NAME> node=<NODE2></pre> resource_group のエイリアスは rg です。 注: リソース・グループによって管理されているリソースはすべて、現行ノードではオフラインに、指定したサイト内のノードではオンラインになります。 node 入力を指定しない場合、リソース・グループは、現行ポリシーのデフォルト・ノードではオンラインになります。
リソース・グループの停止	<pre>clmgr stop resource_group <RG_NAME></pre> 注: リソース・グループによって管理されているリソースは、現行ノードではオフラインになります。
アプリケーション・モニターの一時停止	<pre>clmgr manage application_controller suspend <APP></pre> 注: このコマンドは、指定したアプリケーションのアプリケーション・モニターを一時停止します。 application_controller の代わりに ALL を指定すると、すべてのアプリケーション・モニターを一時停止することができます。
アプリケーション・モニターの再開	<pre>clmgr manage application_controller resume <APP></pre> 注: このコマンドは、指定したアプリケーションのアプリケーション・モニターを再開します。 application_controller の代わりに ALL を指定すると、すべてのアプリケーション・モニターを一時停止することができます。
サービス IP の移動	<pre>clmgr move service_ip <SERVICE_LABEL> interface=<NEW_INTERFACE></pre> 注: <NEW_INTERFACE> 変数は論理インターフェースを参照します。例えば en3 などがあります。

クラスター・サービス

コマンドの使用法	コマンド構文
クラスター・サービスの開始: クラスター全体	<pre>clmgr start cluster</pre> 注: SMIT で「リソース・グループの管理」オプションが「手動」に設定されていない限り、クラスターによって管理されているリソースはすべてオンラインになります。
クラスター・サービスの開始: サイト	<pre>clmgr start site <SITE_NAME></pre> 注: 現行ポリシー設定で禁止されているか、SMIT インターフェースで「システム管理 (C-SPOC)」 > 「PowerHA SystemMirror サービス」 > 「クラスター・サービスの開始」 > 「リソース・グループの管理」フィールドが「手動」に設定されていない限り、サイト内のノードによって管理されているリソースはすべてオンラインになります。
クラスター・サービスの開始: ノード	<pre>clmgr start node <NODE_NAME></pre> 注: 現行ポリシー設定で禁止されているか、SMIT インターフェースで「システム管理 (C-SPOC)」 > 「PowerHA SystemMirror サービス」 > 「クラスター・サービスの開始」 > 「リソース・グループの管理」フィールドが「手動」に設定されていない限り、ノードによって管理されているリソースはすべてオンラインになります。
クラスター・サービスの停止: クラスター全体	<pre>clmgr stop cluster</pre> 注: クラスターによって管理されているリソースはすべてオフラインになります。アプリケーションおよびその他のリソースをオフラインにすることなくクラスター・サービスを一時停止したい場合は、manage オプションを unmanage に設定する必要があります。
クラスター・サービスの停止: サイト	<pre>clmgr stop site <SITE_NAME></pre> 注: manage オプションが unmanage または move に設定されていない限り、サイト内のノードによって管理されているリソースはすべてオフラインになります。
クラスター・サービスの停止: ノード	<pre>clmgr stop node <NODE_NAME></pre> 注: manage オプションが unmanage または move に設定されていない限り、ノードによって管理されているリソースはすべてオフラインになります。

2016 年 12 月

本書は、IBM® PowerHA SystemMirror 7.2.1 Standard Edition for AIX® および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

© Copyright IBM Corporation 2016.